

豊後の石仏と地形地質

酒 井 富 藏

(一)、はし が き

石仏造立はオ一に仏教の弘通された地方である事。オ二に更に重要な要因をなす仏像造立に適當なる石材を得ることであります。この条件にかなつたのが、下野の石仏と豊後の石仏であります。下野の石仏は、現在大谷石と呼ばれている凝灰岩を使用しているし、豊後の石仏も亦同様に阿蘇火山(兩子火山も同時的に)の活動によつて出来た凝灰岩及び安山岩に依存しています。以下表題について詳述しました。

(二)、阿蘇熔岩の分布と石仏

オ一図はその阿蘇熔岩の県北における分布図で、すなわち宝泉寺川に入り、森盆地に拡がり、玖珠郡各所の谷地を埋めた阿蘇熔岩は一方玖珠川を流下した熔岩と日田盆地で合し、更に股を各方面に出しています。

玖珠の盆地を埋めた熔岩は東北日出生の部落を過ぎ、駅館川の溪谷に入り、宇佐の南方僅かに五軒の三つ又川までも及んでいます。支流津房川に逆流した熔岩は、なおも東方五郎丸附近の峠を越し、八坂川の谷に入り、立石の馬上金山附近に至りてもなおこの熔岩をみ、更に鉾山(田原山)の高い背

稜を越えて桂川の谷に見られます。ただここは熔岩でなくて凝灰岩のみであります。また豊後高田市田染字台附近のもは所謂耶馬溪熔岩(古期阿蘇熔岩)があります。

オ二図は阿蘇熔岩の県南における分布図です。すなわち、犬飼附近においては数個の著しい地質学的島嶼を残し、一は北に向つて大野川の河谷を下り、一はそのまま東へ真直ぐに臼杵に達しています。(熔岩のうちには真の熔岩流でなく、凝灰岩乃至浮石質集塊岩・灰石・粘土層も含まれています。)



オ一図 阿蘇熔岩の分布 (松本唯一、地評11巻115頁)



図二 阿蘇熔岩の分布 (松本唯一、地評11巻115頁)

これら両子
熔岩、大阿蘇
の大熔岩流は
その高所にあ
るものは容易
に迅速に侵蝕
し盡され現今
残存せるもの
は至つて少な
いのでありま
すが、これが
岩壁を現出せ
る地形の所
は石仏(な
お磨崖の
板碑・
五輪塔など
もあ
る。)が彫
刻されてい
ます。
すなわち、

- (1)、県北のものとしては 駅館川流域の安心院の乳不動石仏
・ 水垂石仏・津房岡の石仏・桂川流域の熊野石仏・大門の石
仏・元宮の石仏・鍋山の石仏・都甲川の流域大岩屋の石仏

(2)、大分川流域のものは大分市附近及び大分郡にあるもの

で元町の石仏・植田の石仏が代表的のもの。

(3)、臼杵川流域のものは、臼杵市深田の大石仏群。

(4)、大野川流域のものは、大野・直入郡の地域に散在する
もので、菅生の浅瀬や、南緒方宮園等のものです。

これらは凝灰岩及び安山岩と崖面地形の分布と一致してい
るのであります。

斯くの如くながめて見ますと、わが郷土における石仏造立
を容易ならしめた原因の大半以上は適当なる石材凝灰岩及び
安山岩の豊富に産出することに帰せざるを得なくなりま
す。

(勿論石彫技術の進歩も考慮に入れる必要もあります。)

すなわち大阿蘇を中心として大小火山の活動、噴火は熔岩
・ 火山灰・凝灰岩の分布を多くならしめ、これが適当なる堅
さと、適当なる懸崖を形成するところにのみ石仏が顕現され
ているのであります。

(三)、石仏彫刻と石質

凝灰岩或いは安山岩は岩石上如何なる性質を有するかとい
うに、彫刻建築の材料としては余りに脆弱粗鬆であり、良好
なる材料とはいえず、石仏用岩石としては、むしろ大理石・
花崗岩・石灰岩等が好適のものでしようが、これらは日本に
余り多く分布していませんので仕方なくこれによつたもので
しよう。

元来これらの岩石は多孔質で、各種の岩石の破片等を狭有

していただきますので緻密均一の石質を得ることが困難であります
が、ただその硬度は花崗岩・大理石及び石灰岩などに比して
遙かに柔かく、特に土中で湿気を含んでいる場合にそうであ
ります。

それゆえ、のみ(鑿)をもつて槌破するよりも、手斧・鶴
嘴の類をもつて此れを切断することさえ容易でありますから
殆んど木材と同じ工合に取扱ひ得るのであります。この加工
容易なる性質は、技術いまだ洗練されていない古代の人々を
して、凝灰岩をして彫刻建築の材料として愛用せられに至ら
しめたのであります。それでこの種の岩石分布とわが郷土の
石仏分布が一致しているということも、この間の事情を物語
るものであります。

この岩石の利用は古墳築成時代、すなわち奈良朝以前から
この豊富な材料を各種の建築的彫塑的材料として使用したに
ちがひなく、その伝統は長くその地方々に存続していたと
ころえ、丁度平安期に入つて、石仏製作の氣運が盛んになつ
たので、直ちにその伝統の技術をもつて、この新しい彫刻を
表現することとなり、石工の器具のごときも従來のものを、
そのまま使用したものと思われまます。

なお、石仏と岩質について附言したいことは火山活動によ
つて生成された凝灰岩と安山岩ですが、凝灰岩のやわさに対
し安山岩は或る程度かたく、時には硬質安山岩になると花崗

岩に匹敵する位いのものがあります。この点よりしてこれら
岩石に造頭された石仏にも自ら異つた結果を生じ、すなわち
凝灰岩に造頭された石仏は大変深く陽刻され、浮彫に近いも
のがあり、製作年代も鎌倉期以前のものが多く、一方硬質安
山岩のものは彫り方も浅く、製作年代も鎌倉期を下るよう
です。

(四)、むすび

わが郷土の石仏は畢竟阿蘇火山帯及び両子火山の活動の結
果産生された凝灰岩及び安山岩をその材料として發生した芸
術の作品に外ならないもので、この芸術の先行的素養として
は己に早く高塚の時代から、石棺・横穴等の製作があつてお
り、これが平安期に入つて密教の新しい宗派の布教活動と共
に、同じ材料をもつてこの仏教の造頭を顕出するの必要にせ
まられ、支那の留學僧等の見聞によつて伝えられたものであ
りましよう。

わが郷土の文化がこの凝灰岩及び安山岩の存在に負う所最
も大なるを感じざるを得ないのであります。この無盡蔵的の
材料が結局各時代の必要と趣味とに應じ、無限の變化をその
品目と手法とに留めたことは最も興味を感じざるを得ないの
であります。

(昭和三十一年二月十日稿了)